

東京都写真美術館(1)

事業名	会期	概要
TOPコレクション 光のメディア	2022年3月2日 ～6月5日	TOPコレクションより、19世紀中葉のウィリアム・ヘンリー・フォックス・タルボットから、20世紀初頭のモホイ＝ナジ、マン・レイらを経て現代まで、選りすぐられた珠玉の名品を通じて、写真の抽象表現を紹介します。 光を直接作品化するカメラレス・フォトグラフィの初期写真から現代写真に至るまでの系譜 と、ストレート写真における、 光そのものを写真家たちがどのように捕らえてきたのか を示す作例をご覧ください。
写真発祥地の原風景 幕末明治のはこだて	2022年3月2日 ～5月8日	幕末から明治時代の、箱館から函館へと移り変わった北の玄関口「はこだて」 を展示室に再構築し、時間と空間の両面から北の大地の旅へ誘います。 ロシアを経由し日本にもたらされた知られざる写真発祥の歴史について、北海道初の写真師の作例 とともに紹介。 デジタル技術で失われた写真の持つ物質性の魅力を初期写真の技術プロセスとともに理解できる展示 です。
TOPコレクション 前衛写真	2022年5月20日 ～8月21日	日本の前衛写真はシュルレアリスムや抽象美術の影響を受け1930年後半から1940年代までの間に全国各地のアマチュア団体を中心に勃興しました。短期間の潮流であったことから、その活動は長らく検証がなされていませんでしたが、近年各地の美術館により研究が進められてきました。本展では、 同時代に流行した前衛絵画との関係性を含め、日本の前衛写真が戦後の主観主義やシュルレアリスム運動とどのように関わっていったのか を詳らかにしていきます。
メント・モリと写真	2022年6月17日 ～9月25日	「メント・モリ」をテーマに、 写真と死について考察する 展覧会。ラテン語で「死を想え」という警句であるメント・モリは、古代より芸術作品の題材として取り上げられてきましたが、印画紙の中に時間をとどめる写真も例外ではありません。本展では 東京都写真美術館所蔵の珠玉の写真・映像作品を織り交ぜながら、人々が死(=見えない世界)をどのように見つめてきたか を探っていきます。
光学を超えて	2022年8月9日 ～10月10日	当館の映像・光学装置、1960～70年代の初期コンピュータで生成されたイメージ、そして近年のコンピュータで制作された作品を 展覧 することを通じて、東京都写真美術館の映像資料の今日的な解釈や意義を考察いたします。出品作家は、 藤澤正樹、木本圭子、タマシュ・ヴァリツキー 他を予定。既にある「ものの見方」と「イメージの作り方」に対する作家たちの挑戦を紹介します。
日本の新進作家 vol.19	2022年9月2日 ～12月11日	写真・映像の可能性に挑戦する 創造的精神を支援し、将来性のある作家を発掘し、新しい創造活動の展開の場 として2002年より開催している展覧会。第19回目となる今回は、写真・映像イメージの持つ 「触覚性」「テクスチャ」 に焦点を当て、 オブジェやデータとしての、今日的な写真・映像の在り様 を探ります。

※この内容は2022年3月3日現在のものです。事業内容は変更する場合がございます。
詳細は東京都写真美術館広報担当までお問い合わせください。

＜お問い合わせ先＞

東京都写真美術館

〒153-0062 目黒区三田1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内

電話 03-3280-0099 <https://www.topmuseum.jp>

【開館時間】10時～18時(木曜日・金曜日は20時まで)

【休館日】月曜日(祝日・振替休日の場合は開館、翌平日休館)、年末年始、臨時休館日

※新型コロナウイルス感染拡大防止等のため、開館時間等を変更する場合がございます。

最新情報は公式サイトでご確認ください。

東京都写真美術館(2)

事業名	会期	概要
野口里佳	2022年10月7日 ～2023年1月22日	水中や高地、宇宙といった未知の領域と人間との関わりをテーマに、見る者の想像を誘う作品表現で知られる現代美術作家・野口里佳(1971-)。この世界に満ちる無数の小さな謎の探求を通して、見る者の感覚を解き放ちます。本展は「飛ぶこと」をテーマとした近作および新作を含め、写真と映像を中心としたインスタレーションによって紹介する予定です。
恵比寿映像祭 2023	2023年2月3日 ～3月26日 (*3F展示室以外 は2月3日～2月19 日)	過去14回実施の「恵比寿映像祭」で培った実績と国内外のネットワークを活用して、将来性の高い日本の優れた映像作家による本展のための新作を展示上映し、それを国内外で発表していくことで国際発信力の高い事業を展開いたします。また、3F展示室の会期を45日間に延長し、より多くの皆さまに映像文化の魅力をお伝えします。
深瀬昌久	2023年3月3日 ～6月4日	第二期重点収集作家の一人、深瀬昌久(1934-2012)の個展。1960～70年代という日本写真の黄金時代に、荒木経惟や森山大道らと時代を同じくして、新しい表現を切り開いた作家の活動を紹介します。東京都写真美術館蔵の作品をベースに、深瀬昌久の代表作により構成。魅力的な人物像を浮き彫りにしながら、表現の特異性を検証していきます。

※この内容は2022年3月3日現在のものです。事業内容は変更する場合がございます。

詳細は東京都写真美術館広報担当までお問い合わせください。

※太枠は本プレスリリースの表紙に掲載している事業です。

<お問い合わせ先>

東京都写真美術館

〒153-0062 目黒区三田1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内

電話 03-3280-0099 <https://www.topmuseum.jp>

【開館時間】10時～18時(木曜日・金曜日は20時まで)

【休館日】月曜日(祝日・振替休日の場合は開館、翌平日休館)、年末年始、臨時休館日

※新型コロナウイルス感染拡大防止等のため、開館時間等を変更する場合がございます。

最新情報は公式サイトでご確認ください。